

問7 広告制作業務の現状把握と改善（システム戦略）（H30 秋・FE 午後問7）

【解答】

- 【設問1】 ア
 【設問2】 イ、ウ
 【設問3】 a-イ、b-エ

【解説】

基本情報技術者の午後試験ストラテジ系の分野からは、専門用語などの知識を問う問題、論理的思考力を問う問題、及びそれらが混合する問題が出題されている。平成30 年秋は論理的思考力を問う「システム戦略」分野から出題されており、広告制作会社において広告原稿を電子化することによる業務改善がテーマである。

設問1では、授受管理簿の内容について、設問2では、広告原稿の「紛失事故」が誘発されるおそれがある作業グループについて、設問3では、広告原稿を電子化することによる作業軽減について問われている。

【設問1】

この設問では、授受管理簿の一部が示された上で空欄部分を推測することが求められる。

【制作部門での作業の流れ】(1)④までの作業が完了しており、流れを追っていく。授受管理簿に記入しながら考えていくとよい。

- 授受管理簿の「通番」、「受付日」、「営業担当者」、「紙広告原稿枚数」及び「Web 広告原稿枚数」には、実際に、該当項目が全て記入されている。通番6では「紙広告原稿枚数」は「-」となっており、紙広告原稿がないことを示している。
- 点検を行うので、授受管理簿に記入する項目はない。
- ②の結果を受けて不備がある場合は、「返却事由」に「原稿不備」と記入して、(1)の作業を終える。通番6の作業では④まで実施されているので、不備がなかったと考えられる。したがって、本作業では、「返却日」、「返却事由」は空欄のままである。
- 作業担当者を決定し、「審査担当者」、「紙広告作成担当者」及び「Web 広告作成担当者」の欄に記入する。通番6では紙広告原稿がないので「紙広告作成担当者」の欄には「-」を記入する。

これらのことから、図A のようになる。したがって、正解は、(ア)である。

通番	受付日	営業担当者	顧客名	紙広告原稿枚数	Web 広告原稿枚数	返却日	返却事由	作業担当者		
								審査担当者	紙広告作成担当者	Web 広告作成担当者
6	10月11日	佐々木		-	5枚			佐藤	-	渡辺

図A 10月11日における授受管理簿（通番6）

【設問2】

この設問では、【制作部門での作業の流れ】の中で、誘発されるおそれがある「紛失事故」について考察している。

「広告原稿をグループ間で受け渡すとき及び営業部門に渡すときに待ちが発生する場合がある。この場合に、一時的な保管が必要となって、「紛失事故」が誘発されるおそれがある」と記述されている。保管する可能性があるのは、広告原稿をグループ間で受け渡すとき、営業部門に渡すタイミングであることが分かる。また、受け渡すときに待ちが発生しない場合は保管の必要がない。

各作業において広告原稿を保管する可能性のある工程を洗い出してみる。

- 管理グループの作業1について確認する。
 - 営業部門から広告原稿を受け取り、保管せず、すぐに処理している。
 - 広告原稿の受渡しは発生しない。
 - 広告原稿に不備がある場合は、広告原稿を営業部門に渡すが、待ちが発生しない。
 - 広告原稿を審査担当者に渡すときに、待ちは発生しない。

①～④から、(1) 管理グループの作業1において「紛失事故」が誘発されるおそれはない。
 - 審査グループの作業について確認する。
 - 広告原稿の受渡しは発生しない。
 - 広告原稿を管理グループに渡すときに、待ちは発生しない。

①、②から、(2) 審査グループの作業において「紛失事故」が誘発されるおそれはない。
 - 管理グループの作業2について確認する。
 - 審査グループでの審査結果が「不適」であれば、広告原稿を営業部門に渡すが、待ちは発生しない。
 - 広告原稿を作成担当者に渡す。このとき、作成担当者が他の作業を行っている場合は、作業の終了を待って渡すことになる。この場合は渡すまでに待ちが発生し、広告原稿を保管する必要がある。このときに「紛失事故」が誘発されるおそれがある。

したがって、(イ)の「管理グループの作業2」が正解の対象となる。
 - 作成グループの作業は解答群に含まれないので、確認を省略する。
 - 管理グループの作業3について確認する。
 - 紙広告とWeb 広告について、受け取った広告原稿と作成済広告がそろっているかどうかを確認しているが、待ちの有無については明記されていない。
 - 紙広告とWeb 広告について、どちらかに不足がある場合は、必要なものが全てそろうまで待つ。その場合、既に受け取っている広告については保管する必要がある。このときに「紛失事故」が誘発されるおそれがある。

したがって、(ウ)の「管理グループの作業3」も正解の対象となる。
 - 営業部門に広告原稿と作成済広告を渡すときに、待ちは発生しない。
- (3)②及び(5)②の作業で保管が発生することが確認されたため、正解は(イ)、(ウ)になる。

【設問3】

この設問では、広告原稿を電子化することによる、「紛失事故」が誘発されるおそれの低減、管理グループの作業軽減について考察している。

授受管理簿の通番4（図B）に対応して管理グループが行った作業が、表1に整理されている。

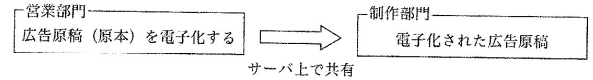
通番	受付日	営業担当者	顧客名	紙広告原稿枚数	Web 広告原稿枚数	返却日	返却事由	作業担当者		
								審査担当者	紙広告作成担当者	Web 広告作成担当者
4	10月6日	松本		5枚	-	10月10日	作成完了	鈴木	田中	-

図B 10月11日における授受管理簿（通番4）

広告原稿を電子化する時点の候補として、二つのポイントが挙がっている。

営業出口

- 営業部門が制作部門に渡す直前に電子化する。
- 広告原稿（原本）は営業部門がもっているため、制作部門での作業完了後に、広告原稿が制作部門から営業部門に手渡されることはない。



制作人口

- 制作部門が営業部門から受け取った直後に電子化する。
- 制作部門での作業完了後に、広告原稿（原本）が制作部門から営業部門に手渡される。



ここから、管理グループの作業における書類の受渡しについて確認していく。通番4にはWeb 広告原稿がないのでWeb 広告作成担当者との書類の受渡しは発生しないことに注意する。

- 管理グループの作業1について確認する。
 - 営業部門から広告原稿を受け取っており、「広告原稿の受け（対営業部門）」が発生している。
 - 書類の受渡しは発生しない。
 - 広告原稿に不備がある場合は、広告原稿を営業部門に渡すが、通番4の返却事由は「作成完了」であり、不備はない。したがって、書類の受渡しは発生しない。
 - 不備がないので広告原稿を審査担当者に渡す。したがって、「広告原稿の渡し（制作部門内）」が発生している。
- 審査グループの作業について確認する。
 - 書類の受渡しは発生しない。
 - 広告原稿と審査票を管理グループに渡すので、管理グループから見ると「広告原稿の受け（制作部門内）」と「審査票の受け（制作部門内）」が発生する。
- 管理グループの作業2について確認する。
 - 審査グループでの審査結果が「不適」であれば、広告原稿を営業部門に渡すが、通番4の返却事由は「作成完了」であり、不備はない。したがって、書類の受渡しは発生しない。
 - 紙広告原稿を紙広告作成担当者に渡すので、「広告原稿の渡し（制作部門内）」が発生する。
- 作成グループの作業について確認する。
 - 管理グループへの書類の渡しは発生しない。
 - 紙広告作成担当者から管理グループに対して作成済広告と広告原稿を渡す。したがって、管理グループから見ると「作成済広告の受け（制作部門内）」及び「広告原稿の受け（制作部門内）」が発生する。
- 管理グループの作業3について確認する。
 - ①、② 書類を確認する。
 - 広告原稿と作成済広告を営業部門に渡すので、「広告原稿の渡し（対営業部門）」及び「作成済広告の渡し（対営業部門）」が発生する。

これらのことから、管理グループにおいて行われる作業のうち、受渡し作業は表A のようになる。

表A 管理グループが行った作業（受渡し）

作業	工程	件数	
広告原稿の受け（対営業部門）	(1)①	1	
広告原稿の渡し（対営業部門）	(5)③	1	制作人口
広告原稿の受け（制作部門内）	(2)②、(4)②	2	
広告原稿の渡し（制作部門内）	(1)④、(3)②	2	営業出口 制作人口
作成済広告の受け（制作部門内）	(4)②	1	
作成済広告の渡し（対営業部門）	(5)③	1	
審査票の受け（制作部門内）	(2)②	1	
合計件数		9	

- 営業出口：広告原稿を営業出口において電子化すると、管理グループが行う作業での広告原稿の受渡しは全て電子化されるので、手渡しによる作業は作成済広告の受渡しと審査票の受けだけになる。表A から分かるように、その件数は「3」件である。
- 制作人口：広告原稿を制作人口において電子化すると、営業出口に加え、広告原稿の営業部門との受渡しを手渡しになるので、件数は2件増えて「5」件になる。

したがって、空欄aの正解は(イ)であり、空欄bの正解は(エ)である。